

園芸デザイン科の課題研究紹介★

～果物・お花・庭づくりの世界～



植物を育てるだけじゃない、3つのアプローチ

園芸デザイン科の研究は、ただ植物に水をやるだけではありません。
植物を通じて、全く違う3つの視点（レンズ）から世界を探求します。



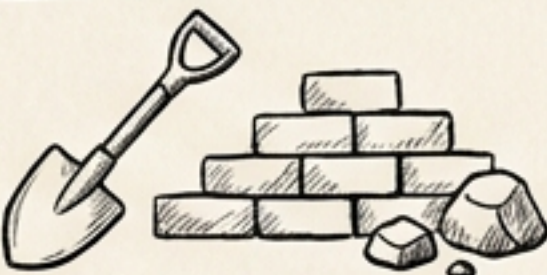
1. エコ・イノベーターの視点（果物）

捨てられるものを価値あるものに生まれ変わらせる
魔法（アップサイクル）。



2. サイエнтиストの視点（お花）

植物の声を聴き、データを集めて最適な環境を探求する科学。

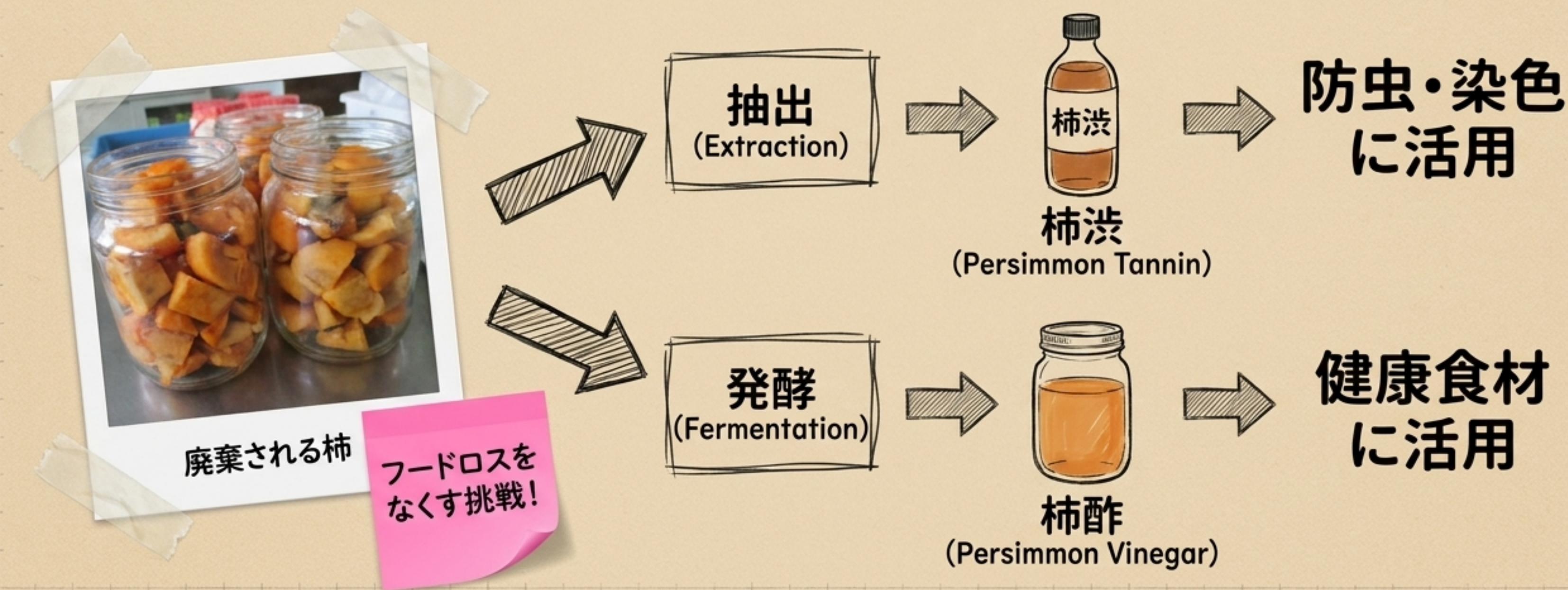


3. クリエイターの視点（庭づくり）

ゼロから空間を設計し、現実の世界に組み上げる力。

【果物の研究】「もったいない」を価値に変える

禅寺丸や富有柿など、形が悪かったり、傷がついたりして売れない「規格外」の柿。これらは通常、そのまま捨てられてしまいます。この身近な「フードロス(食品ロス)」問題に対し、昔の人の知恵を借りて現代の高校生が挑みました。



【果物の研究】 エコな魔法の薬を作る

カメムシに汁を吸われた廃棄用の柿が、魔法のように新しいアイテムに変わります。



■ 柿渋の実験

布を染めると、ほんのりピンク色で無臭の仕上がり。さらにブルーベリーの木に吹きかけたところ、ミノムシやイラガなどの虫よけ効果が期待できる結果になりました。



■ 柿酢の実験

富有柿に水、ドライイースト、穀物酢を加えて発酵実験。ほのかなお酢の香りが漂い始め、1年後の完成が楽しみな結果に。

1年後が楽しみに!



【お花の研究】 植物の声を聴く科学

グロキシニアという美しい花を、極小の種から育てます。
しかし、ただ育てるのではなく「どうすれば一番よく育つか」を観察し、記録し続ける長い旅です。



12月21日

爪楊枝を使った
繊細な種まき

4月

鉢上げ（小さな
芽をお引越し）

5月

鉢替え（さらに
大きな鉢へ）

7月
美しい花の開花！

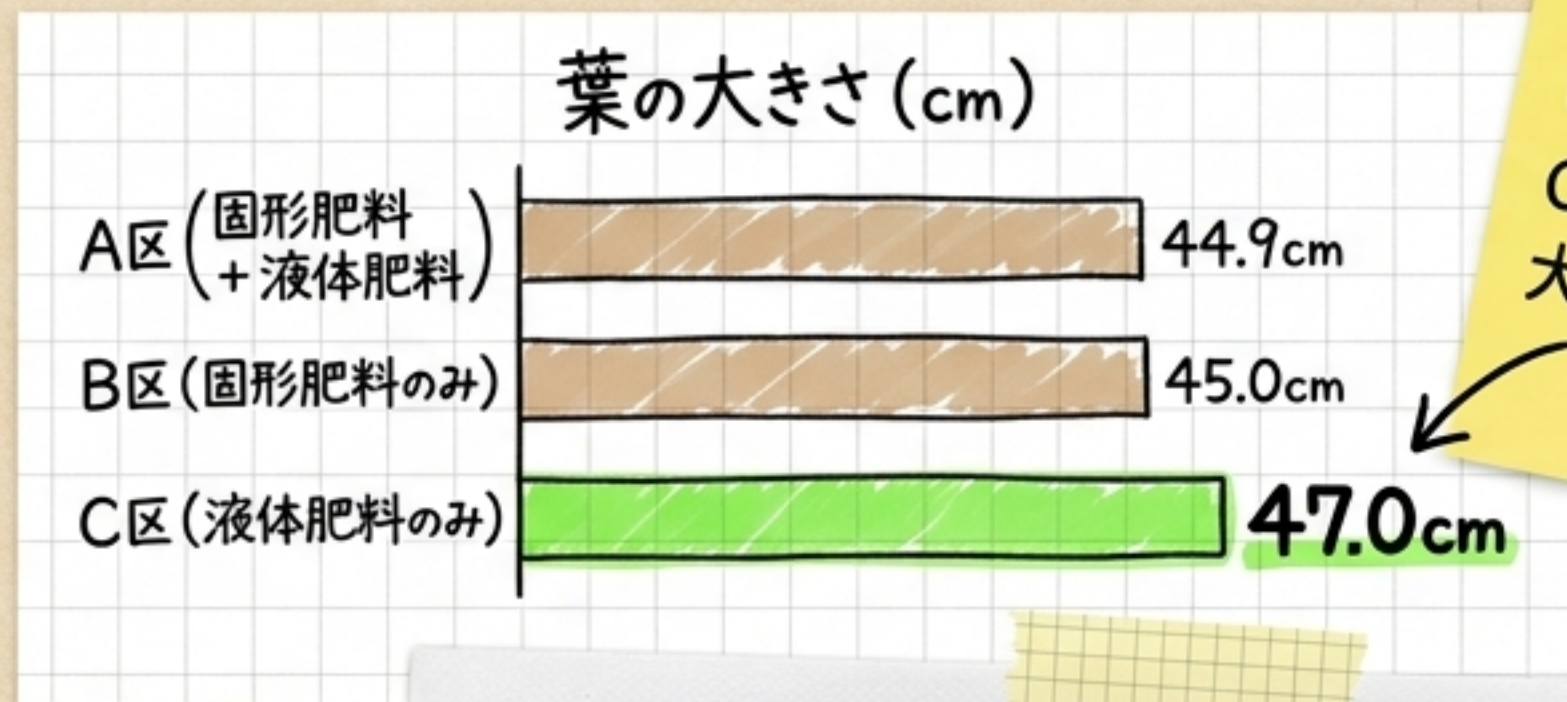


研究助手？

【お花の研究】 肥料対決！ 葉っぱを一番大きくするのはどれ？

どのような栄養を与えれば、
グロキシニアの葉は最も
大きく育つのでしょうか？

3つの異なる条件で
「植物成長レース」を
行いました。

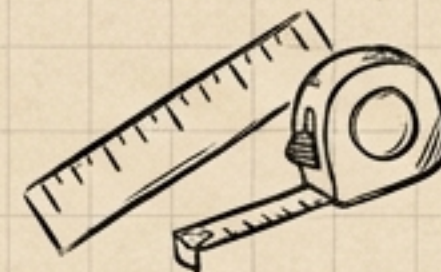


意外な結果！
『液体肥料のみ』の
C区が最も葉っぱが
大きくなりました！



【庭づくりの研究】ゼロから世界を創り出す

教室の半分ほどにもなる「十坪庭園（約33平方メートル）」を一から自分たちで設計し、製作するダイナミックな実習です。



池 (Pond) :
自然石を配置した水辺



建仁寺垣 (Kenninji-gaki) :
竹で作る伝統的な壁

笥 (Kakehi) :
水を引き入れる竹の仕掛け

石橋 (Stone bridge) :
重い石を据え付けた橋

【庭づくりの研究】 汗と力の結晶

プロが作ったような静寂な庭園も、実は高校生 たちの汗と力の結晶です。
電動工具を使いこなし、コンクリートを練り、時には重機（クレーン）を操縦して大きな木を植え付けます。 園芸とは、ダイナミックな建築や土木でもあるのです。



セメントも
自分たちで!



本格的な
重機操作!

手を使って考え、形にする力

アイデアで環境を救う「果物の研究」。科学の目で観察する「お花の研究」。空間をデザインする「庭づくりの研究」。全く違う3つのアプローチに見えますが、これらはすべて「自分たちの手で育て、考え、作り上げる力」という一つの大きな 喜びに繋がっています。園芸とは、生命を通じて世界をデザインする最高のクリエイティブなのです。

